

# 全国学力・学習状況調査結果が

# 例年より早く学校に届きます！

今年度、全国学力・学習状況調査において初めてCBTが導入されたことを契機に、調査結果の取扱いの改善が行われました。今号では、その改善の一つである**結果返却のスケジュール**についてお知らせします。

## 結果返却のスケジュール改善のポイント

- ① 児童生徒の学びへの還元を最優先に、**学校への結果返却の時期を前倒し**
- ② 国による結果公表は3段階に分けて行い、教育委員会や学校の**主体的な分析期間を確保**

学校への結果返却の時期 **例年よりも2週間早く返却されます。**

**7月14日(月) 10時からWEBシステムにて提供** ※閉鎖予定日時：9月30日(火) 18時

- ① 「個人票」の提供 → **個人票を児童生徒・保護者に返却することが可能です。**
- ② 「学校向け各種帳票」の提供 → **7月31日(木) 17時まで個人票以外の「学校向け各種帳票」の情報は外部に提供・公表しないようお願いします。**

例年よりも2週間早く「個人票」が返却されることで、1学期末の懇談等で、調査結果を児童生徒や保護者の方に渡すことで、**夏休みの学習について考えるきっかけ**にすることができそうですね。

分析・活用の具体例 ※R6「学ぶ力」育成通信5号を参照。

### 分析の視点例

- 正答率が低かった問題を取り上げ、なぜ、正答できなかったか**要因**を深く考える。
- 「解答類型」から「**どう間違っているのか**」を確認し、指導改善に生かす。
- 分布を表すグラフから、**集団の傾向**をつかみ、効果的な指導方法の工夫を図る。

### 活用の具体例

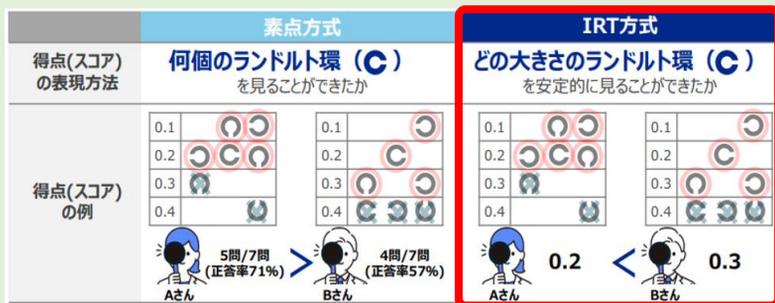
- 調査結果を返却する時期や方法を工夫し、**児童生徒が夏休みの学習に意欲的に臨むための資料**とする。
- 学習状況調査について、児童生徒の**実態を把握するための資料**として活用する。
- 学力状況調査について、各学年・各教科の2学期以降の**授業改善に向けた取組の参考**とする。

## 参考：IRT（項目反応理論）について

中学校理科については、IRTに基づいて結果提供されます。ここでは、簡単にIRTについて説明します。

### Q. そもそもIRTとは？

A. 児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、精度）によるものか、児童生徒の学力によるものなのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを**推定する統計理論**。  
PISAやTOEICなどの検定試験等で採用されている。



※素点方式の場合は、Aさんの方が正答数（見ることができたランドルト環の数）・正答率が高くなる。IRT方式の場合は、Bさんの方がスコア（視力）が高くなる